

5日必着

短歌 (投稿順)

秋夜長ボケ防止にはいいかなとクロスワードを始めて三年
 二刀流大リーグの顔大谷君偉業成しとげ四度目の大賞
 たわわなる柿を笑顔で分けくれし人唄びつつ買ったるを剥く
 老齡で関所が二ツ気まま旅海を渡るな飛行機乗るな
 裏畑で狸と出くわし後ずさり素早く去るに眼疑う
 積み上げしケルンを眺め霜柱踏み締め金峰の頂を目指す
 佳き報せ短歌にした、む短冊を掛けおく居間の障子貼り了ふ
 自ら身を子守れるうちは仕合わせと励まし生きる齡となりぬ
 夜祭りの賑わい思い遠花火音を聞きつつ眠りに就けり
 会えて良かったそんな思いをくり返し睦みし窓にシラコバト二羽
 同窓の一年ぶりの幹事会絆深めて再会喜ぶ
 草を刈り庭の手入れも手を借りて早や巡りきし年用意済す
 文化財第八兵団長官舎中に入ればSTARBUCCKS
 暗闇で俺は戦う一人きり俺と戦うドブネズミの唄
 山の木々赤や黄色に色づいて色競り合いて山は絶景
 病院の待合室で見るテレビ高層の火事助かれ願ふ

下田野 新井 節子
 皆野 根岸 詩子
 三沢 眞下 杏子
 皆野 戸塚喜久雄
 国神 藤原マキ子
 皆野 大澤 貴夫
 皆野 引間 万亀
 下田野 浅見 豊子
 皆野 村田ハツ代
 皆野 萩原 初恵
 三沢 新井 民子
 三沢 新井 叶子
 皆野 打木 昭廣
 皆野 石原 達也
 下田野 上田野 沢 T・O
 上田野 四方田利男

俳句 榎本順江 選 投稿数 17 句

曙光にコーヒーの香冬立ちぬ
 (評過去にテレビで見た一句、それ起さる、それ食え、それ行け、一年生。今も昔も朝の慌ただしさは変わりません。作者は明け方の光の中でコーヒーの香に目覚めたのでしよう。起きてゆったり飲むコーヒー、うらやましいひと時です。暦の上では冬ですが、内は香り漂う暖かさ。良き一日の始まりです。二句目、盆地からあふれる程の人の波の秩父夜祭。豪華な屋台や笠鉦が街を行き、お旅所にそろそろと祭りも最高潮。夜空に上がる大輪の花火が祭りの終盤を盛り上げます。来年への期待も込めて祭りを締め括った冬の花火。中七が上手く伝えていきます。三句目、今日は病院での診察。ちよつと耳の遠くなった作者と医師との受け答えは紙に書いて交わします。細かく丁寧な医師の説明は、大したことはない、だったのでは。暮れかかった家路への軽い足どりが思われます。お大事に。)

夜祭りを熱く括るや冬花火
 皆野 引間 千鶴
 年新た心気一転老に鞭
 皆野 根岸 詩子

筆談に医師の説明暮早し
 三沢 新井 叶子
 そつと掘り深くダリアの冬曲
 三沢 眞下 杏子

初氷つがいのインコ身を寄せて
 国神 鈴木 正文
 棘包む花柎の香りかな
 三沢 新井 民子

美の山の肩に乗つかる大満月
 皆野 戸塚喜久雄
 初風や川のとどみに雑魚の群
 皆野 萩原 初恵

統合になりし母校や冬銀河
 上田野 四方田利男
 古の仏師の誇り照り紅葉
 皆野 櫻井 早苗

富士山の初冠雪を知るラジオ
 下田野 新井 節子
 ひみつですこたつの中はほくのきち
 皆野 小二年 泉谷 健斗